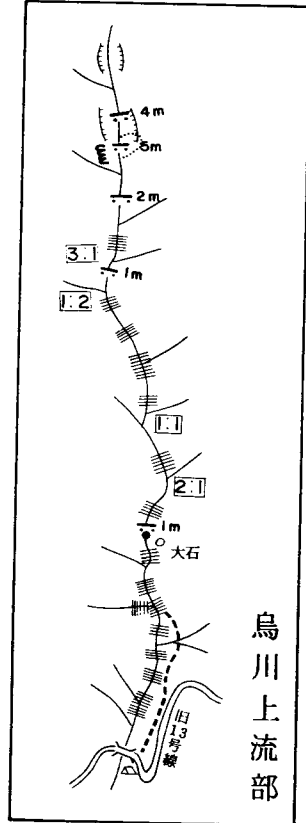


烏川上流部



烏川上流部

上
下
一九八一年八月三〇日

前夜は旧一三号国道にかかる橋の上にテントをはって寝た。廃道となっている旧国道でこそできることである。今日は、六バーティがそれぞれの沢をめざす。

我々の目的は、烏川の上流部である。昨日遊行した下流部が全くの平凡であっただけに、上流部もそうで

はないかという不安がつきまとう。六時出発。朝の水の冷たさが心地良い。

不安は的中した。小さなナメが出てくるだけで、滝はその姿も見せない。いつ引き返そうかとタイミングをはかりながらも、もう少し行けば滝があるかもしれないと、希望的観

測だけで一步一步進む。

左右に小沢を分けて、水量もぐつと減ってきた。水の溜れるのも間近だから、そこまで行こうと、自分自身を励まして進む。

やがて五段の滝。「あった」と大喜び。さてどう登るか考えたが、捲くより仕方なさそうだ。左岸の不安定な草付きを登って捲く。

この上にも四段の滝がある。こっちは直登だ。諦めていたのに、二つも出てきて大収穫。

すぐ水も溜れる。さあ引き返そう。

(記・)

「タイム」 旧一三号国道(六:〇〇)

↓終了(七:五〇)